

シオンの子

第 41 号
2018.12.3



小学6年 男児 『学園の風景』
～ピノキオ絵画教室に通っています～

お世話になったためぐみホーム

僕は、今めぐみホームにいてとても幸せな毎日を過ごしています。でもたまに小学生達がうるさくて時には嫌になる場面があったりします。けどそういう時に支えてくれるのがめぐみホームの先生達です。

ホームの先生達は、時に優しく時に厳しく指導してくれてとても感謝をしています。今は、感謝の気持ちしかありません。僕をここまで育ててくれて本当に嬉しいです。

先生達の支えがなかったら今の自分にはなかったと思います。

先生達とは、いつも話を聞いてもらったり、たまにはどこかへ出かけたり、一緒にご飯を食べたり、たまにはケンカをしたりしたけどそれでも楽しい生活を送れました。

四歳から学園にいましたが、こんな幸せな時間や色々な行事に参加をして、色々な人との関わりが出来てそばには友達がいとても有意義な生活ができてとてもよかったです。

僕を今まで面倒みてくださった園長先生をはじめとした先生方、本当にありがとうございました。

もうすぐ卒園になってしまいますが、みんなと離れて暮らすのはとても寂しいけど一生懸命立派な社会人になりたいと思います。

周りの人達に感謝の気持ちを忘れず残りの生活を送りたいです。

本当に僕を育ててくれた先生方、ありがとうございます。学園にいてとても幸せでした。

クリスマスの前に考える

社会福祉法人子持山福祉会

る

クリスマスというとき、クリスマスツリー、ケーキ、ご馳走、プレゼントなど思い浮かべる人が多いのではないだろうか。

子持山学園（以下当園）では本場のクリスマスを迎えるようと三部形式で行っています。一部燭火礼拝、二部祝会、三部食事。

一部の燭火礼拝は子ども、の天使、聖歌隊そして渋谷教会より牧師先生をお招きして厳かに行われます。二部はがらりと雰囲気を変えて、子どもたちが司会をして、子どもたちが司会をして、クリスマス劇、歌、踊り、ゲームなど楽しく賑やかに行われます。三部は各ホームに戻り、待ちに待った食事です。クリスマス委員たちが皆の希望を取りまとめ検討したメニューです。そしてプレゼントになります。

私は一九七九年九月に当時理事長園長だった中澤英三と結婚し当園の指導員に

なりました。当時のクリスマスは今程華やかではなく、ご馳走も少なかったように思います。当時は一、二、三部共食堂で行っていました。

創立当初のクリスマスについて、東京の上富坂教会からいらしたボランティアさんが「上富坂たより」という機関紙に「子持山のひと月から」と題して文を寄せていらつしやる中に、「クリスマスイブのこと」があります。（一九五三年二月号）

『夕刻六時、折しも停電中をローソクで礼拝が行われました。子どもたちはおそらく生まれて初めてのクリスマスを経験するのである。心より主の御降誕を祝し、御名を讃美した。ミスター中澤のお話をお聞きする。その後待望の祝餐チキンライスとほうれん草と豆腐のお清しである。食後二階に戻り中小学生の聖劇を観て心を温められる。最後にミスター中澤より一人贈物の包を頂く。ニコニコ顔で座に戻って早速紐

をといている子。今夜は彼等の顔も明るく洋服も、ズボン、足袋、セーター等皆々新しい。ミスターミセス中澤のご苦心の程がうかがわれる。最後の楽しみとしてクリスマスケーキのご馳走。之は二三日夜を徹してミセス中澤と私の二人で焼き上げた苦心の作。材料もクリスマスだけとは、スペシャルケーキ十二個にバタークリーム、デコレーション、シュークリームもあつて豪華版である。朝から棚のケーキを見ていた子どもたちは大喜び。勿体ない様な感謝でいっぱいになりつつ食堂で散会。子どもたちは部屋に引上げ贈物の一つ一つを取り出して楽しんでいる。この贈物のことを思うと、私は子どもに代わって多くの兄弟姉妹に心から感謝を申し上げたい。この日の為に上富坂教会より冬の衣類の包、羽子板、菓子等を又或る洋裁学生の方は友達間で話し合つてマフラー、手袋、足袋、冬の衣類を数多く寄せられた。特に云いつくせない思いに感激したの

は、長い闘病の床に在り苦しんでいらつしやるMさんより思いもよらない包が届いたことである。羽子板、羽根、なわとび、お手玉、袋、筆入、お裁縫箱、お人形、クリスマスカード等を多くの女の子にと。又幼児には幼児向のマリ、人形、風船等を。何と温かい贈物である。総て手製で。

静かな山の上で都会でも何処でも味わえない貧しさ、と苦しみの中で、気の毒な数多くの子どもたちと共にご降誕のこんな感激を経験できたことは、私の生涯を通して忘れることの出来ない深い喜びとなった。』と記している。

経費が乏しく物が少ないのが良いとは思わないが、経費にゆとりがあり物が溢れていると、何時かそれが当前になりありがたいという思いが薄れてしまうような気がする。本当のクリスマスって何？一度立止って考えてみたい。



三年遅れの

サンタク

ローズ

今年もクリスマスが近づいてきました。この頃になるといつも思い出すことがあります。

かれこれ五〇年も前のこととです。

教会でクリスマス礼拝の後祝会が開かれ、最後に交換プレゼントが行われました。みんなで一つの輪になって歌を歌いながらそれぞれ用意してきたプレゼントを回し、歌が終わったときに自分の手許にきたプレゼントが自分の物になります。期待するものが回ってくるかどうか、不思議なわくわく感があります。自分のプレゼントが決まり、開封してひと言。不要なものでも、いかにも自分がほしかったものだったかのような決めた台詞を何とか考え受けを狙います。

その日わたしの手許にきたのは一枚のカードだけ。それには「ごめんなさい。プレゼントを持ってこなかった」

たので、来週講壇の引き出しの中に入れておきます。」と。

「来週もう一度クリスマスができます。」とか何とかコメントしつつ、心の中ではあまり期待しないことにしました。予想通り、次の週、引き出しの中には何もありませんでした。その次の週も、そのまた次の週も…。

三年後、クリスマスが近づいたある日、突然我が家に小包が届きました。差出人は

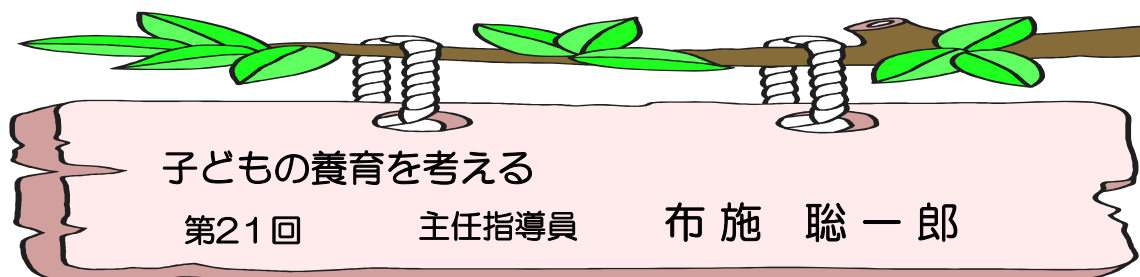
『三年遅れのサンタクロース』

開いてみると、毛糸の手編みのマフラーでした。あまり上手とは言えないけれどもあの頃流行っていた長〜いマフラーです。手紙には、「三年前のクリスマスに、プレゼントを忘れたので来週持つてきます、と書いておきながら持つていけませんでした。遅くなりましたが送ります。」とありました。小包には我が家の番地もなく、

「〇〇先生隣り 望月栄一様」とだけ書かれており、よく届いたなあと思うと同時にずいぶん苦労して送ってくれたのだなあと思いました。それに三年間ずっと心に引っかかっていたであろうことも想像でき、もらったマフラー以上にその誠意を嬉しく思いました。

さて、学園の子どもたち、今年はどうな心のこもったプレゼントがもらえるのかな？

神様からの愛のこもったプレゼントⅡイエス・キリストを思いつつクリスマスを迎えたいものです。



子どもの養育を考える

第21回

主任指導員

布施 聡一郎

例年にならない暑い夏を終え、色づく木々に意識的に目を向けないとあつという間に冬になってしまいそう、な、目まぐるしい四季の移り変わり…。そんな時期、高校三年生も、就職、進学と着々と進路が決まりかけている。そんな中、「卒園まであと四か月、自立していけるのだろうか、掃除に、洗濯ご飯、役所関係の手続き…」職員員の不安は絶えない。学園では、敷地内の親子訓練室を利用して、自活訓練生活体験がこの時期から始まる。

「自立」とは何か？を考えたときに、敬愛する先生が教えてくれた、ある言葉が脳裏に浮かぶ。

『自立は依存の完成形』

誰かに依存することができて初めて自立ができる。逆を言えば、依存なくして自立は成立しない！この言葉を覚え、向き合ってきた。

そもそも十八歳での自立は未完成で仕方ないと思う。焦ってあれこれ教えることより、一緒にいられる残りわずかな時間の中で、寄り添い、共に過ごすことで、誰かに頼っていいんだよ。信頼できる大人はいらんだよ、そんなメッセージを最後まで送り続けること。いつか自立できる日を願って、いままだ依存の進行形でいいのかもしれない。そしていつの日か、真の自立ができたとき、私たちのミツ

シオンが一つクリアできるのかもしれない。それが五年後、十年後だとしても、誰かを信頼し、依存できる関係性の中で、人として成長していくのだと思う。卒園Ⅱゴールではなく、もう少し、隣の人とさせてほしい、それが私たちの真意なのかもしれない。卒園は、あくまでも通過点に過ぎないのかもしれない。

昨今、児童養護施設でのケアのゴールが二〇歳、さらには、二二歳と状況に応じて支援の継続とされてきている。併せて、十八歳成人年齢等も含めて社会情勢が変わりつつある。社会的養護を必要とする子どもたちが抱く将来への不安、また無限の可能性を秘めた輝きを持つていることを社会へ発信していきたい。

もうじきクリスマス。馬小屋で生まれた、主イエス・キリストのご降誕。ベツレヘムの空に救い主の誕生を知らせる星が輝いたように、子持山学園にも星が輝きますように…。

「見よ。おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」その名は、「神は、我々と共におられる」という意味である。(マタイによる福音書一章二三節)





子ども達の成長

★高校3年生 男子

小学校から頑張っていたサッカー。高校3年生まで続けられました。お疲れさま！

★幼稚園年長 男子

机の上の整理がとても上手になりました。「これはここのおうちだね」と笑顔で言ってお片付けしています。

★小学2年生 女子

運動会で踊ったエイサー。頭にバンダナ、左手に太鼓を持ち本番さながら…夕食後に踊っています。

★小学4年生 女子

数年前は泣きながらしていた大嫌いな宿題。今は自分一人の力で最後まで取り組んでいます。

★4歳児 女子

最近、職員がダメな事を注意すると、「しー」と自分の口に人差し指を持ってきて、「怒らないで」と言われているようです。

★高校3年生 男子

いつもは「～だから手伝えない」と言っていますが、ここぞと言う時は「やっておいたよ」との一言。ありがとう！

★小学6年生 男子

6年生になったばかりの時は、まだ甘えん坊でしたが、今ではご飯の配膳などお手伝いをたくさんしてくれます。

★高校1年生 女子

苦手だった料理も毎日のお弁当作りで、少しずつ上達してきました！

★中学3年生 女子

高校受験。勉強が苦手だけど、少しずつ自分なりに頑張っている姿が見られてるね。目指せ合格！

かがやく星たち



シーパラダイス旅行



水族館ではガラスに顔を近づけて夢中で魚たちを見ていました。イルカのショーでも大興奮!!遊園地でもたくさん乗り物に乗れて、いい思い出が作れました。

ディズニーシー旅行



アトラクションに乗ったり、ショーを見たり、すごく楽しかった☆



群養協ソフトボール大会

小学生から高校生までのチームでの参加。猛暑の中でも練習を頑張りました。みんながチームのために頑張った結果はなんと優勝!!大接戦の決勝で3点リードを守りきりました。



【朗報】群養協サッカー大会でも中学生優勝しました！おめでとう！！

2学期も頑張ろう会



流しそうめん・スイカ割り
映画鑑賞・バーベキュー・花火
みんなで楽しんだよ!



他にもKANSAI様から食事券をいただいて外食に行ったり、コーエイ様からふわふわフェスティバルに招待してもらったりと、皆さまのお心遣いにより素敵な夏休みになりました。
ありがとうございました！



卒業後の進路

来年の3月で6人の高校生が子持山学園を卒園します。就職や進学、自分の将来に向けて一生懸命準備をしています。（専門学校2人、就職4人）



高校三年生 男子

私は、高校を卒業したら、株式会社ベイシアに就職します。私は人と話す事が好きなので、それを長所として生かせる販売業に就職先を決め、第一志望で内定を頂く事ができました。入社後はすぐに研修があり、社会人としてのマナーや接客の大切さ等多くの事を学ぶことになるかと思っています。現在もアルバイトで品出し等をやっていますが、「お客様への言葉遣いや挨拶、相手の話をしっかり聞く、言われた事をする」等今後にも生かせる大切な事を学んでいます。基本を身に付け、誰とでも話せて明るく元気な一流の販売員になれるように、頑張っています。

高校三年生 女子

『好きな事を職にする』簡単そうで難しい事で、多くの人が諦めるが、私は趣味である料理を職にしたいと考え、調理を学べる専門学校に進学する。不安と楽しみ、さまざまな感情が行き来している。進学できる事が、当たり前になつてきている中、金銭面、家庭の事情でなくてもできない子も多くいて、それでも多くの人の支えがあり、進学できる事を忘れずに、充実した二年間を送りたい。そして、専門学校で学んだ事を活かした職に就く事で、恩返ししていきたい。

星座

夏休みの思い出

渋川教会キャンプ



あずま森林公園でキャンプをし、礼拝を守りました。キャンプファイヤーやレクリエーション、カレー作り…みんなで楽しく過ごしました。羊毛フェルトを使って羊作りもしました！

愛宕神社祭典

おみこしを一生懸命
かついだよ!!



鯉沢地区納涼祭



ひとりでヨーヨー
つれたよ♪



お泊り保育



プール・温泉・花火…
たくさんたのしかったよ♪

防犯出前講座

県出張出前講座を活用させて頂き、警察OBの方による不審者対応、不審者に声をかけられたときの対応を紙芝居で学びました。

部活お疲れさま!

中学3年生、高校3年生がこの夏で部活を引退しました。
朝早くから夜遅くまで、休日も練習頑張ったね！
部活を通して心身共にとても成長しました。



活動報告

平成30年5月～平成30年11月

- ・子どもの日の集い
- ・渋川教会子どもの教会（教会ピクニック、教会花の日礼拝、教会キャンプ他）
- ・防災合同訓練
- ・群馬県児童養護施設連絡協議会球技大会（ドッジボール、ソフトボール、サッカー）
- ・愛・感・ジャパンチャリティーイベント
- ・「赤城自然園招待」（山田昇記念財団様）
- ・じゃがいも植え・収穫、栗拾い、さつま芋も収穫（篠原ボランティア）
- ・鯉沢地区愛宕神社祭、納涼祭、ファミリ運動会、子持地区体育祭（地域行事）
- ・浅田神社祭典、納涼祭、ファミリウォーキング（地域行事）
- ・園内保育「お泊り保育」
- ・お好み焼きKANSAIへ食事（食事券ご奉仕）
- ・旅行「八景島シーパラダイス」「東京ディズニーシー」
- ・創立記念日
- ・学園納涼祭
- ・幼、小、中運動会
- ・握り寿司ご奉仕（小政鮎様）
- ・児童祝福式（七五三のお祝い）
- ・カットボランティア（県理容生活衛生同業組合様、髪切美匠様）
- ・全日本プロレス高崎支社福祉チャリティ事業招待
- ・ドリムズ・カム・トゥルー・プロジェクト様より「東京アイズニールンド招待」
- ・軽井沢おもちゃ王国様より招待
- ・山田製作所様より「二〇一八YAMADAフェスティバル招待」
- ・JR東労組様より「文化祭招待」

※その他、多数の招待、寄贈、ご奉仕などに感謝。

平成三〇年十一月一日入所児童状況

- ・幼児 九名・小学生一二名
 - ・中学生 一二名・高校生一四名
- 計四七名



小5 女児
「庭のお友達」



年長男児
「ぼく」



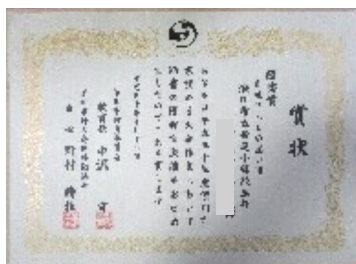
小5 女児
「動物たちのバーベキュー大会」



小3 女児
「はにわ」



小6 男児
「わたしたちの校舎」



小5 女児 作文 優秀賞
「お母さんとの思い出」



小3 女児
「キラキラちょうちょ」



小6 男児
「ジョッキ」

セカンドステップの取り組み

今年の一月から、小学校低学年の子とも四名と一緒にセカンドステップを行っています。約十ヶ月子ども達と楽しく六〇分の時間を過ごしています。十月には新たに職員二人が研修に参加し、四人でセカンドステップを行っています。

ステップは、最初に子ども達と決めたルールの確認から始まります。一人ひとりがきちんと覚えていて、今では紙を見ずに言えるようになりました。その後は、頭を使うゲームをして、写真を見て自分の考えた事、思った事を話しセッションを進めていきます。その日行うセッションの大切な所をプリントにまとめノートに貼り、ホーム職員へ伝えていきます。真っ白だったノートも、もう少しで終わってしまいます。

最初は緊張していた四人でしたが今では大きな声でセカンドステップの歌を歌ったり、自分なりに写真の主人公の気持ちを考えたりして、意欲的に参加してくれています。日常でもステップを使っている場面が見られ、定着しているのだと嬉しく思います。また、職員以上に子ども達が理解してくれて、私達も日々学びがあります。もうすぐ全ステップが終わってしましますが楽しみつつ学んでいきたいと思っています。

担当 星野采香・丸田舞華

セカンドステップとは：

目的ー子どもの衝動的・攻撃的行動をやわらげ、社会への適応能力を高める
内容ー学びのスキル、共感・情動の扱い、問題の解決について学ぶ。人物が写っているカードを使用しながら自分の気持ち・相手の気持ちを理解し、社会的スキルを身につける。



保健衛生委員会

保険衛生委員会は発足して二年目の委員会です。三年前は安全委員として活動していましたが、委員で担

う内容が幅広く、より安全面・衛生面それぞれの活動内容を充実させる事を理由に、安全委員とは別に保健衛生委員会が誕生しました。

保健衛生委員会では、子ども達の健康に関すること

を観点として活動しています。主な活動内容ですが、子どもが嘔吐した時に使用する衛生セットの中身がきちんと整っているかの確認を二か月に一度行ったり、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が流行する時期には現場職員に注意喚起を行い、子ども達に手洗い・うがいを促したりし



ています。また、子持山学園ではホームに勤務する職員も調理を行う機会があるため、職員向けに市の保健師さんを招いて食品衛生についての講話をしていただき知識を深めたり、委員のメンバーで外部で開かれている保健や衛生に関する内容の研修に参加をするなどしています。

その他にも、毎月一回開催している委員会時に、今必要だと思う活動について意見を出し合い対策や活動を行っています。

保健衛生という内容が難しく、委員としてもどのような活動を行っていったら良いかを考え、活動できたらと思います。

給食委員会

給食委員会では、日々の食事がより良いものになるよう、様々な活動をしています。その中の一つとして、「日常生活に合わせた食事づくり」を目的とし、月ご

委員会の活動紹介

子どもたちの生活の質を高めるために、学園内に9つの委員会を組織し、各職員が分かれて所属しています。今回は、「保健衛生委員会」「給食委員会」の取組みを紹介します。

このテーマを基にホームで調理をする企画を実施しています。配られた食材を使って同じメニューを作る「統一献立」と、メニューや買い出しを各ホームで行う「自由献立」の2種類があります。自由献立では、調理を担当する職員が、子ど



も達と一緒に献立を考えスーパーへ買い物に行ったり、子どもたちが喜ぶように盛り付けを星やハートに野菜を型抜きしたり、ソースやケチャップで絵を描いたり工夫しながら作っています。出来立ての温かいご飯を食べ、笑顔になる子どもたちを見ると職員もとても嬉しく思っています。

また、それぞれのホームでの子どもたちの食事の様子や食事に関する意見を記入する『意見ノート』を導入し、給食職員がコメントを返しています。意見ノートに書かれた内容を委員会ではピックアップして話し合うことで、日々の食事がより良いものになるように努めています。それぞれのホームで好みに差があり、難しい部分もありますが、子どもたちが美味しく楽しく食事が出るように努めています。

学園を支えている「ひと」

理容組合では、平成十八年頃から、九月第二月曜日を理容ボランティアの日と決め、組合のみなさんに協力してもらい、初めは渋川駅前から市役所までの歩道の草むしりをしていました。

組合員から、床屋ができるボランティアは、やっぱりカットだよねと話になり、子持山学園があると聞き、十年前からそれが始まりです。

かわいい子どもたちがいっぱいいて、次々カットが始まると、きれいになったと嬉しそう顔がたまらないです。

子どもたちからは、毎年お手紙をもらいます。

「カットしてくれてありがとうございます、かっこよくなつてうれしかったです」

手紙ありがとうございます。また、みんなでカットに行きます。

カットボランティア

群馬県理容生活衛生同業組合
理事 茂木正行



